

大田区自立支援協議会 令和2年度 第6回地域生活部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和2年度 第6回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和2年12月15日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	宮崎 渉	鶴田 雅英	青山 明子	大場 貴弘
	宮島 祐紀子	山根 聖子	榎 拓巳	大岩 香代子
	小野 英次郎	棧敷 洋子	清野 弘子	中野 真弓
	新田 美和	山田 悠平		
	区事務局：秋山、西澤、大本、親跡、藤崎			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 自立支援協議会第4回運営会議の報告について</p> <p>ア 令和3年度に向けて</p> <p>オンラインを活用した公開勉強会について、実施方法等は令和3年度に検討する。</p> <p>(ア) 専門部会体制について</p> <p>来年度も3部会体制を維持する方向、各専門部会で検討・意見集約していく。</p> <p>(イ) ワーキンググループについて</p> <p>協議会の目的を含めて、ワーキンググループの役割を検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに関するワーキンググループがあっても良いのではないか。 ワーキンググループが目的型と課題解決型になっている。 <p>イ 各専門部会で確認する事項</p> <p>(ア) 専門部会体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインで使用する機器購入の予算を計上していないので、今年度中オンラインでの開催はできない。来年度については運営会議で事務局が報告する。 新型コロナウイルスワーキンググループに関連して、保健所の区職員のオブザーバー参加は業務過多のため、今年度の参加は見送る。 <p>⇒・来年度も3部会体制継続となった。</p> <p>(イ) 本会委員への当事者委員の参画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都自立支援協議会の動きに沿う形で、大田区自立支援協議会でも当事者の参加を検討してはという事務局提案が運営会議の中であった。 現在、本会委員に精神障がいと知的障がいの当事者がいない。本会委員に迎え入れるにあたっては合理的配慮等受け入れ側の準備も必要なので時間をかけて検討していく。 他自治体では事前に何時間もかけて当事者の委員に説明を行っているところもある。受け入れに際して配慮が必要な部分もあると思うが、前向きに進めていってほしい。 2年間の委員任期が当事者にとっては大変負担であるという意見があるので検討願いたい。色々な参加の形を模索し、そのロードマップ作成をお願いしたい。また、その際は当事者団体の意見も踏まえてほしい。 			

- ・当事者参加については以前から話が出ているが実現していない。議論を加速させてほしいし、時期などを具体的に示してほしい。

(ウ) 専門部会委員の任期について

現在、本会委員の任期が2年、専門部会委員の任期が1年となっているが、専門部会委員の任期についても2年に変更してはどうか。

- ・のみ委員の選出について「団体に対しての推薦」なのか、「個人に対しての推薦」なのかによって、任期の決め方に配慮が必要。「団体に対しての推薦」となると各団体の構成が影響する可能性がある。推薦の在り方をはっきりさせる必要があるのでは。

ウ 自立支援協議会報告書作成について

- ・1月19日(火)に委員へ確認依頼。1月末までに事務局へ報告。このスケジュールは例年通り。昨年のを参考に役割分担などを伝えていく事とする。その中で話し合っ決めて決める事については、協議をお願いしていく。

協議会だよりについて

- ・12月10日に編集会議が行われた。地域生活部会の原稿については部会長が作成。
- ・当事者参画に関する意見も含めて部会全体の活動報告も盛り込んでほしい。

(2) ワーキンググループ就労定着支援の調査・分析の報告

- ・専門部会委員の他にオブザーバーとして区内支援機関等からも参加していただき検討を行った。
- ・就労後3年半経過した人はこの制度の利用対象にならないが、その人たちの中にも支援が必要な人はいる。
- ・定着支援事業が制度上、支援を必要としている人が利用できない現状があることが課題として浮き彫りとなった。
- ・定着支援事業所の指定を受けず、自費で定着支援を行っている事業所も多い。
- ・そのような事業所に対して、大田区から補助があると、安定した支援につながるのではないかと。
- ・今後、定着支援について、大田区内の支援事業所と区の就労支援センターがどのように協力していくかの検討が必要と考える。

(3) WITH 新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題について

⇒運営会議に諮り、ワーキンググループ 活動に移行。

ア 課題等の整理の仕方等について

- ・専門部会で実施したアンケートと部会で話し合われた内容を基に、どのようなまとめ方をしていくかを検討。アンケートについては簡潔な単語にまとめてカテゴライズしている。部会で話し合った内容についてもワーキンググループでまとめていく。

イ 今後の進め方等について

・分析後に考察を加えていく形で進めていく予定。「情報の伝達共有」、「IT化」、「差別」の課題が顕在化されている。ワーキンググループを数回行い、報告書には間に合うように進めていくが、スケジュール的なことを考えると、年度をまたぐ活動になるかもしれない。

ウ その他

・次回ワーキンググループは1月8日(金)10時からの予定。場所は追って連絡。

(4) 令和3年度に向けた課題の整理、スケジュール確認等について

ア 令和2年度に抽出した課題について

- ・重症心身障害児・者の短期入所について
- ・地域に戻る仕組みの検討(地域移行)
- ・相談支援部会との連携について

イ 各分野で考えられる課題について

- ・家族での支援が難しい場合、入所施設に入らざるを得ない状況がある。
- ・本人の地域生活を地域で「支える」仕組み作りについて、再検討する必要がある。
- ・「子ども」に関する課題の抽出や「子ども」に関するワーキンググループを作って話し合いを広げていく必要があるのでは。発達支援マップのワーキンググループだけでは子どもに関する話し合いは十分な状況ではない。具体的なテーマに基づいた情報共有を行いながら、課題の抽出を行っていくワーキンググループが必要。
- ・地域に「留まっている」人達の中にも困っている人達がいる。その人達がどんな事に困っているのかを知る必要がある。また、どのような情報があれば、その人たちの助けになるのかを検討していく必要がある。
- ・大田区から離れた場所に入院や施設入所をしている人達が多数いる。「戻る仕組み」を実践する際に、大田区の現状やどのような社会資源があるのか知らない人たちがいる。
- ・他部会のワーキンググループに参加できるという話だったが、実際に参加までつながらなかったと思う。次年度に向けて、他部会のワーキンググループへの参加方法などを検討してほしい。
- ・部会を超えた関わりとして、ワーキンググループだけでなく広いテーマで参加、話し合いが出来るような形態が望ましいのではないか。当事者参画なども含めて検討してほしい。
- ・年度当初には、合同部会の話があったように思う。運営会議の中で検討をお願いしたい。

ウ 令和2年度から令和3年度に向けた想定スケジュールの確認について

【事務局】作業部会を含めて、1月、2月の部会で検討していきたい。

(5) 部会の開催日程、年間スケジュールについて

- ・次回部会：1月19日(火)10時～12時

	<ul style="list-style-type: none">・作業部会：1月5日(火)11時～サポートセンター3階集会室。参加できる方は事務局へ連絡。 <p>(6) 各連絡会等の情報提供について</p> <ul style="list-style-type: none">・おおむすび連絡会：おおむすびのグッズを各就労継続支援B型事業所から会長宛てに配布。・在宅で生活している高齢者と障がい者でその家族が新型コロナウイルスに感染した事（本人が陰性判定の場合）で在宅生活が困難になった際には、短期入所や介護ヘルパー等の手配やその費用を大田区が負担する仕組みがある。・各ワーキンググループの進ちよく状況について <p>(7) その他</p> <p>(8) 第7回「地域生活部会」に向けた作業部会について</p> <p>日時：令和2年1月5日（火）11：00～12：00</p> <p>場所：障がい者総合サポートセンター3階集会室2 以上</p>
--	--